

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年4月23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200445		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑五日市八幡		
所在地	広島市佐伯区八幡5丁目16番地10号 (電話) 082-927-8400		
自己評価作成日	平成27年4月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200445-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200445-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	739-1733広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年4月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で暮らし食事の支度から後片付け、掃除、洗濯を干したり畳んだり声掛けしながら職員と利用者様がとに行い身体機能を維持しています。お一人おひとりのニーズを確認しながら個別ケアの支援を行い穏やかに日々を過ごして頂いています。ほのぼの苑五日市に入居して良かったと思って頂くよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム ほのぼの苑 五日市八幡はJR五日市駅より車で15分、広電バス「八幡」バス停から3分の広島市郊外の閑静な住宅街にあります。一部2階建ての日当たりの良い建物で、2ユニットに分かれ、中庭に面した其々のリビングが広く、ゆったりとした雰囲気となっています。広い中庭には菜園や花壇があり、利用者の皆さんは菜園や花壇の手入れは元より、晴天の日には花壇の前のテラスでお茶をされたりコーラスを楽しまれています。室内の掃除や洗濯物を干したり畳んだりなど職員と共に行い家庭的な暮らしが穏やかに続けられています。開設4年目になり、職員の連携もよくとれており、「地域に寄り添い、笑顔と思いやりを持って、安らげる環境の中で、生きがいのある生活を支援します。」との理念のもとに支援されています。

グループホーム ほのぼの苑五日市八幡

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所時の研修で職員全員で作った理念を毎朝朝礼で唱和し常に意識し日々の介護にあたっている。	毎朝朝礼で、開所時の職員全員で作った理念「地域に寄り添い、笑顔と思いやりを持って、やすらげる環境の中で生きがいのある生活を支援します。」を唱和し、つねに利用者へ寄り添った支援を心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、職員と利用者がともに町内清掃に参加している。神社の祭りではホームの玄関までお神輿が周ってきたりして交流を図っている。	町内会に加入し清掃活動に参加し資源ごみ回収に協力している。お祭りには苑の玄関まで神輿が来てくれる。地主さんが地域の有力者であることもあり、近隣者は苑へ親近感を持たれ協力的で日常的に交流が図れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	インターンシップの受け入れを行い、また2ヶ月に一度、運営推進会議に地域の方に参加して頂き勉強会をもうけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、地域の方、ご家族から活発な意見を頂き、職員間で討議し施設サービス向上に活かしている。	運営推進会議は家族、包括支援センター職員、町内会長、ささえ会(老人クラブ)代表、消防署(年1回)、施設長、職員が参加し2ヶ月に1回開催している。会議前に大腸がんの予防法、成年後見制度等介護関係の勉強会を行い、会議では施設の現状、事故、行事、次の予定等報告し参加者の意見・助言をサービスに役立てている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括センター主催の行事「体操教室」などに参加している。	市町の対応は本社を通じて行うことが多いが運営推進会議の報告、地域包括センター主催の「体操教室」等に参加している。運営推進会議の「成年後見制度」勉強会に市職員に講師をして貰った。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束行為が人権侵害にあたることを職員に周知している。玄関の施錠については車の往来等のため、やむを得ず施錠しているが、中庭の扉については開放し自由に入出入りして頂いている。	身体拘束について職員は研修し理解しており、緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他の行動制限を行わない旨運営規定にも明記している。玄関前の道路は交通量も多くやむを得ず施錠しているが、中庭へは自由に入出入りできる。「虐待の芽チェックシート」を活用し、職員全員が毎月反省し検討して真心の支援向上に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のスタッフ会議で「虐待の芽チェックシート」を活用し職員全員で日々のケアを振り返り気軽に注意し合い虐待防止に努めている。		

グループホーム ほのぼの苑五日市八幡

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	運営推進会議に市職員より成年後見制度の勉強会を行い、スタッフ全員に伝達報告し情報を共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は管理者、計画作成担当者、利用者側2名で口頭と文書で十分説明しご家族の不安、疑問点を尋ね理解、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	受付に自由に意見や要望をいただけるような「苦情受付」を用意し、運営推進会議、家族会に於いても意見を頂くようにし運営に反映させている。	運営推進会議や家族会でだされた意見、来苑時や電話等で述べられた要望等は運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議には必ず代表取締役・統括が出席し、職員の意見・要望が直接届くよう配慮している。また、法人全体の介護会議などでも各事業所間の意見交換を密に行っている。	ユニット会議で支援方法や記録方法について話し合うが、それらは月1回開催されるスタッフ会議で代表取締役・統括に意見が届くようにしている。また、法人全体の会議などでも各事業所間の意見交換会を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	次月の勤務表には、個人の勤務希望を配慮し100%シフト表に反映している。また、各種研修会にも本人の意思に添うよう計っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本人の希望する研修を受講できるよう配慮し、スキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修会に参加することにより同業者同士の交流を積極的に行ったり、区のCMの勉強会に参加しサービスの真の向上を目指している。		

グループホーム ほのぼの苑五日市八幡

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前後の面談を行い、できるだけコミュニケーションを多く設け、環境の変化、日常の不安・要望など耳を傾け、思いに添える支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談の機会を多く設け、家族の不安・思い・要望などお聞きし、相談しやすい密な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の思い、家族の要望を出来る限り正確に把握し、何が必要か見極め、統合的に考えサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の支援、後片付け、掃除、洗濯など、声掛けを行い、職員と一緒にいる。庭の菜園、花作りは教えていただく事が多く、職員との関わりを大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月職員からのお便りで苑の日常生活の様子、苑の行事案内など郵送し、常に連絡をとり共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	なかなか会えない県外の友人と手紙や電話で話され、関係を維持されている。	家族や入居前のご近所さんの訪問がある。美容師には毎月決まった方に来て貰っている。家族と行きつけの美容院に行くなど馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者様同士でお互いに声掛け合ったり協力し合える場面が多く見られる。交流が苦手な方もレク活動で関わり場の場を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談を受けお力になれるよう努力している。		

グループホーム ほのぼの苑五日市八幡

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いに耳を傾け、日常生活の表情・会話などから言葉に出されない本人の意思をくみとるようにしている。	リビングの居心地を良くして、出来るだけリビングでの滞在時間を長くして寄り添い、本人と会話する時間を作り、希望・意向を把握して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人・家族から、生活・介護・医療などいろいろな面から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化している利用者様の身体、生活状況を介護記録に残すことに現状を把握し職員が共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・ご家族の意向、本人のADLに合わせたケアプランを作成し、担当者会議で本人・ご家族・介護職員・NSとともに検討し、本人主体のケアプランを作るようにしている。	運営推進会議終了後、家族に残って貰い看護師を交えて家族の意向を聞いている。職員の気付きを申し送りノートに記録し、家族の意向もあわせ、モニタリングを行い担当者会議で総合的に検討し現状に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、看護記録、介護経過それぞれ利用者の状況を記入している。毎朝朝礼に気づきを報告し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常に本人主体の支援が行われるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事に参加させて頂いている。また、町内会有価資源ごみの収集にも協力させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時、苑の協力医院の説明を行うと同時に、今迄のなじみのかかりつけ医を選ばれることも自由である旨も説明している。また、協力医とは、24時間の連絡がとれ緊急時の対応も行っている。	入居時に苑の協力医療機関の説明ををし、これまでのかかりつけ医を選ばれることも自由である旨説明している。協力医は2週おきに火・金の訪問診療があり、24時間いつでも対応が可能である。口腔ケアは毎食後職員が対応している。入れ歯については家族が対応している。	

グループホーム ほのぼの苑五日市八幡

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	少しの変化も看護師と連絡をとるような体制が整っており、医師へ速やかな報告を行い早期発見・治療に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族・病院と連絡をとり、本人のADL、体調面の情報を得ている。入院先の医療連携室からも連絡が入り、連携を強化している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時「重度化」について説明を行い、必要時、入居者様・医師・ご家族・苑との話し合いを行っている。	重度化した場合の対応について、契約時に施設の対応について十分説明したうえ書面で契約している。職員全員重度化した場合の対応について研修している。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルがあり、いつでも急変時には対応できるように職員全員で訓練している。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防避難訓練は昼間、利用者・全職員で行い、夜間での訓練も夜勤者全員が行うよう毎月5～9日に設定し周知している。	消防避難訓練は昼間、利用者・職員全員で実施し地域の方にも参加して頂き、1回は運営推進会議の日に行い消防署にも運営推進会議に出席して戴く。夜間は夜勤者全員が実施できるよう毎月5～9日に行っている。近隣のタクシー会社と災害時の協力体制の確約が取られている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーや人格を尊重したケアの実施に努め、笑顔で真心のこもった言葉かけを行っている。日常の業務の中でも職員同士注意しあえるように努めている。	その人らしい暮らしが出来るよう日常生活の中で思いを汲み取り、笑顔で暖かい心のこもった声掛けを行い、トイレ誘導や入浴時などプライバシーに配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と1対1になる入浴時くつろいだ気持ちになられ、自然に本人の思いを聞きその思いに添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居後も入居前の生活リズムを可能な限り継続できるように、また本人は何を求め何を感じどのような生活がしたいか、希望にそって支援している。		

グループホーム ほのぼの苑五日市八幡

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧されたり、好みの洋服を選んで頂いたり、毎月訪問美容に来苑して頂き、いつもおしゃれに関心を持って頂く支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の好評メニューを献立に取り入れ（特にちらし寿司）下準備など一緒に行い、食事作りの達成感も味わって頂いている。片付けは特に好評で平等に順番制にして頂いている。	買い物は遠方なので職員が行くが、利用者に、もやしの根切り、ピーラーでの皮むきなど会話をしながら下準備に加わって貰う。カレーとシチュウどちらか好みを選んで貰ったり食事の量を調節している。毎食写真を撮りメニューを基に管理栄養士が分析している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	「脱水」には特に気をつけており、1日の必要摂取量1500ml前後と設定している。日勤日誌には食事摂取量、水分摂取量を記入し、1人ひとりの状態を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア時、職員のチェックを行い、仕上げ磨きを行っている。可能な限り夜間義歯はお預かりし洗浄剤にて殺菌消毒し保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を利用し、個々のリズムを把握することにより、トイレ誘導を見直し、リハビリパンツから布パンツへの自立支援を試みている。	1人ひとりの排泄パターン・習慣をつかみトイレ誘導している。紙パンツから布パンツへの移行をめざしパットのサイズ変更など試みている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼ることなく、水分や乳酸菌の摂取、又食事には多くの野菜を使用したメニューを心掛けている。また、適度な運動を働きながら自力排便できるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	身体を清潔にすると同時に、心身のリラックスもさせ、利用者の真の心がうかがえる。希望に添える入浴をしていただいている。	入浴は週2回以上とし、体調不良による入浴日の変更や希望に応じて回数を増やすなど柔軟に対応している。入浴時に個別にゆったり会話し普段聞きにくい気持ちを聞く機会にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居後も入居前の生活習慣を大切にするような支援を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬はできるだけ少なく必要ないと思われる薬は医師に症状を伝えて判断を仰いでいる。		

グループホーム ほのぼの苑五日市八幡

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の好みや楽しみを日々の生活の中から把握し毎日の食事やレクリエーションに取り入れている。また、個々の生活歴から役割を持って頂き、達成感を味わって頂くようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お1人ひとりの希望により散歩、外出を体調に応じて行っている。墓参りなどはご家族の協力を得て出かけられるようにしている。	気候の良い時には日常的に近所を散歩したり八幡神社へお参りして、お茶を飲んで帰ったりする。ユニット間の廊下には長い手すりが設備され、雨で外出できない時、寒い季節には廊下を往復し毎日歩行することを心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族の希望あれば、小銭程度の自己管理をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人より希望あれば、苑の電話を使用して頂き、お手紙なども届けば本人にお渡しし、お返事を書いて頂けるようなら支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関にはいつも季節の花を活け、各ユニットより中庭へ自由な出入りができ、季節の花を眺めながらゆっくり過ごして頂くよう努めている。	リビングは日当たりもよく広々としており、車いすでの移動もスムーズに出来、食事やお茶の時間にはテーブルを囲み、ゆったりとしたソファで過ごされる時との空間が別れている。リビングから中庭へは自由に出入りができ、皆さんで花壇を囲んだお茶の時間を楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご本人の意いを尊重し、居室で1人ゆっくりされたい時は無理強いせず対応している。気の合う利用者同士で談話される場面もみられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使っておられた物、家具、家族写真などお持ち頂き、ご自分の居心地よい空間として自由に使って頂いている。	居室にはカーテン、介護ベッド、筆筒が備え付けられているが、本人と家族が相談し、使い慣れた家具、テレビ、家族写真、趣味の作品などが持ち込まれ、本人本位に家具の置き方などに自由に配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビングは広く車椅子の移動がスムーズに出来、独歩のかたには手すりの設置があり安全に自立した生活が送れるようにしている。		



V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム  
ほのぼの苑五日市八幡  
作成日 平成 27 年 4 月 23 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	個別ケアプランが職員のケアに活かしていない。	ケアプランに添ったケアを職員間で共有する。	毎月ケアプランの実施状況を報告書により提出して貰う。	1年
2	49	毎日外出ができていない。	毎日数人ずつ外出できる様にする。	天気の良い日は出来るだけ散歩に出かける。また、中庭でゆっくり過ごして気分転換する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。